

岡遺跡（おかいせき・第2次調査）

発掘調査が終了しました。

岡遺跡の第2次調査が先日、無事終了しました。周辺の皆様のご理解とご協力、本当にありがとうございました。今年度の調査では、中世はじめごろ(平安時代のおわりから鎌倉時代のはじめごろ)の遺構や遺物が出土しました。

初瀬街道に接している4区(写真①)では、中世の井戸が(写真②)見つかりました。伊勢神宮へ参拝に来た人々や街道沿いに暮らす人々の活動を支えていた井戸なのかもしれません。そのすぐ南の3区では大量の小穴(写真③)が見つかりました。その大半が柱穴と考えられ、おそらく調査地一帯では建物の建て替えが複数回行われていたのでしょう。

そのほか、1区や3区では岡遺跡に人々が暮らし始めるよりも前の様相を示す倒木(風倒木痕)の痕跡(写真④・⑥)、谷状の地形(写真⑤)が見つかりました。この調査によって、人々が暮らし始めるよりも前の白山町の姿を一部ですが、明らかにすることができました。

①4区(南から)：中央付近の黒い丸が井戸です。東西方向の道路が初瀬街道で、東に進むと今でも二本木宿の名残が一部残っています。
②4区井戸(西から)：土層を観察するために半分残して掘り下げました。この後残りの部分も掘り下げて遺物などを取り上げます。



③3区(北から)：地面に黒い粒状の影が映っているのは全て小穴です。同時期に掘った穴ではなく、複数の時期があると考えられます。
⑤1区(東南から)：黒い部分は元々谷状に落ち込んでいる所が黒い土で埋まったものです。所々、風倒木痕があります。細長く掘っているのは、谷状の地形を観察するために行ったサブトレンチという調査手法です。



④3区風倒木痕(西から)：黒い土が集中している部分に一部、明るい部分があります。これは、倒木する際に根の部分についていた地面の黄色い土が倒木後の穴を埋めた黒い土と混ざったものです。



⑥1区風倒木痕(南から)：④の3区風倒木痕よりもはっきりと明るい黄色の土が黒い土の上に乗っているのがわかります。

問い合わせ先
〒515-0325
三重県多気郡明和町竹川 503
三重県埋蔵文化財センター
担当：土橋・萩原
電話：0596-52-7028
Fax：0596-52-7035